

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・IK	写真・GT
山行NO.	1915 (個人山行)		
日時	2021年4月11日(日) 無風・快晴・気温(行動中は汗、止まれば爽やか)		
山域	道志山塊・菰釣山(1379m) 北東尾根～B 北尾根		
コース	竹沢種苗店 6:00 一山中湖一山伏峠一道の駅「どうし」一駐車場「山荘・水之元」 7:38一発 7:55一三角点・三ヶ瀬 1055.73m 8:44 一菰釣山(1379m) 11:41 (昼食・休憩) ～下山開始 11:55一下降点・1310m 峰一 B 北尾根一大西沢一林道一駐車場「山荘・水之元」 13:50～14:35 (風呂) 一長泉 15:40 一反省会・長泉「満貫」		
累計標高差	上り 山荘「水之元」約730m～菰釣山1379m＝約649m (やや長い) 下り 菰釣山1379m～山荘「水之元」約730m＝約649m (林道長い)		
藪漕度	上り・下り なし		
難易度	非常に困難 困難 <u>やや困難</u> レ普通 やや易しい 易しい		
道志・菰釣山バリエーション学習会			
参加者	後藤、加藤、遠藤(沼津労山)、井上 =4名		

沼津労山の会長様であられる遠藤さんが、地図読み学習で参加。会長クラス3人と私の4人。また、私以外3人は苗字に「藤」の字が入る名前。なんとも不思議な感じ。

道の駅「どうし」でトイレ。静岡の地元は、もう桜は終わってしまったが、標高700mのこの辺りは満開。駐車場にバイクが多い。2019年9月に近くの道志キャンプ場で行方不明になった当時小学1年生の女の子の探し人の貼り紙が淋しい。



山荘「水之元」



北東尾根

地図を見ながら現在地を特定し尾根に取り付く。明確にとがった尾根なので登りは安心。先頭に行く遠藤さんの歩きが早く、最初の標高差100mを15分で登った。これでは1時間400mペースで早いので、後藤さんが先頭になっていつもの1時間300mペースに戻した。

杉の人工林の中を登り、標高900mで自然林が現れた。何種類もの鳥たちが周りで賑やかに鳴いている。空気はどちらかというと冷たく手は冷えるので手袋をした。登ると体は温まり、1枚ずつ

服を脱いでいく。汗もかくけど大汗ではなく爽やかである。しんどい登りの後のビールを楽しみにしているので、心配はビールがうまいか否かであった。

後藤さんが突然「どれだけ？」と質問してきたので高度を聞いているのかと思って答えたが、ビールを何本持ってきたかといういつもの問いであることに気づき、「ビール（の本数）ですか？」と聞くと、笑って「ビールと言ってはいけない」と言う。

後の昼食時に、山ではビールがエネルギーの吸収が良く、ほぼ酔わないのだと語り、むしろ「点滴（栄養剤?）」のようなものだという結論に至った。そして、今日一番驚いたことは、遠藤さんの沼津労山は、車で山に来たときは、運転手以外の人も全員お酒を飲まずに帰るということを知った。山の頂上で、ビールを飲む姿を良く見かけ、これが山では普通だと思っていたが、意外と仲間のグループがそのような、「清い戒律（不文律?）」を守っているとは思わなかった。



三角点・三ヶ瀬

お隣の三島労山も同じらしく、近接する沼津、三島、長泉で長泉だけが、「飲ん兵衛の会」みたいだ。ちょっと恥ずかしいので、他の会の人がいる時は、点滴とか栄養剤と言おう。エネルギーの吸収のスピードを考えると「点滴」のほうが近いが、さすがに山に点滴を持ってくるのは、遭難者の治療みたいなので、「栄養剤」くらいがよいかも。

ずっと分かり易い尾根を登ってきたが、南西に向かう尾根は、標高 1130m 地点に 2 万 5 千円にもあるポッコリとしたピークがあり、ここが、登りでの地図読みポイント。後藤さんの「どっちだ」の問いに、遠藤さんは見事に反対方向を指した。私の我流の地図の読み方で行く方向を説明したが、今いちで、加藤さんが正しいコンパスの使い方を説明した。

進路を南に取り進む。バリエーション尾根が終わり一般登山道に合流。富士山は頭だけ雲から出し、頭は真っ白だった。帰りに下りで使う予定の尾根を探す、初め間違え、かなりきつそうな尾根を見て、これでは下れないと話した。もう少し進むと V の字に道が曲がり、地図も同じようになっているところが予定した、P1310m の下りの尾根であることが分かった。

これなら快適そうだ。菰釣山の頂上までは、整備された道を登るのだが、階段になっているのでむしろ疲れる。一般道にでるまでのバリエーション尾根の方が好きな歩幅を試せるので非常に楽。しかし、頂上でうまいビールを飲むために頑張る。霜柱が残っている。地表の温度は低いのだろう。偽ピークにだまされ、その先の頂上に到着。



マメサクラ



手製の道標

2つのテーブルは先客がいて、テーブル以外にも南側の山中湖と富士山が見える斜面に2人いた。私たちは南東側の倒木があるところに陣を張る。雲で日が陰ると少々寒いが、太陽が出るとポカポカと暖かい。ゆっくりビールを飲み、のんびり過ごした。

12時に近づくにつれ登頂者が増えてくる。下山開始。加藤さんは山頂にいた人全員と仲良くなったようだ。「またどこかで会いましょうね」と挨拶をしていた。下山で使うバリエーション尾根の頭に男3人がほぼ道の上で食事をしていた。見ると沢登りの姿。一番年上の方は後藤さんと同じ



沢登りのオヤジたち

歳で1ヶ月誕生日が後だった。

お名前は？と聞いたが、「少しは有名になったが名乗るほどのものではない」と時代劇の通りすがるの武士のようなことを言って、どんなに聞いても教えてくれなかった。その方が沢をやるので、後藤さんが、私はこの歳で山スキーに行っていると言うと、2人目の方（石川さんと言っていた）は山スキーの本を書いたと言う。後藤さんが先週に頸城・高松山でスキーをしたと言えば、その人はそのコースは15~16年前に私が開発して世に発表したという。

後藤さんは、もっと昔から行っているとのこと。（後日、山スキーや頸城高松山、石川のキーワードで検索したが何も出てこなかった。）特に得るものもなく、話しているのが面倒臭くなって下ることにした。下りの尾根はこれまた快適であった。上りに使っても調子良さそう。下りは1時間



くらいで大西沢に到着し林道にでる。川沿いにズ〜っと歩く。しばらくすると菰釣山への一般道の看板があった。途中4件ほど家があり、そのうちの1家の犬がずっと吠えてきた。住人のおじさんも登場。家の周りには草木の花が満開で、その人が全て植えたらしい。

東京出身で移住し、5年前に奥さんを亡くされ、今は犬と2人暮らし。雪は3mくらい積もるらしい。冬は不便だという。道々、加藤さんがいろんな花を見つけて教えてくれる。ようやく駐車した山荘に到着。山荘ではお風呂を使わせて貰った。

風呂は一人300円。駐車代は1000円。下山してそれから風呂に行くのではなく、下りたその場所で風呂に入れるのは有難い。風呂は2人しか入れない大きさ。風呂の水の蛇口からでる水は、試

しに飲んでみると、素晴らしく美味かった。後藤さんから常温のビールを1缶貰い、遠く眼下に咲く満開の桜を見ながら飲む。コロナで飲食の花見はご法度だが、思わぬところで花見酒を楽しんだ。

長泉に戻り、下土狩駅前の「満貫」で後藤さんと2人反省会。開店は17時だが、16時から飲ませて貰う。19時まで飲んだところで、20kmのウォーキングから帰ってきた勝又さんが来店。そこから2時間滞在。帰りは下土狩駅からJRで長泉なめり駅まで一駅乗り、自宅へ帰った。

以上

遠藤さんの感想・・・

菰釣山のバリエーションルートと地図読みの計画書を見て土曜日の予定が日曜日に変更となり、これは行くしかないと思い参加させてもらいました。駐車場に着くとスマホはリュックの中に入れて、どこから登り始めるか探して看板の裏から尾根歩きとなる。

先頭を歩きペースが速すぎたのか汗が流れて1枚上着を脱いだ。Iさんには高度を聞いて今ここだねと地図で確かめた。1055.7m地点で後藤さんに「どっちに行く」と聞かれ「右」と言ったら大間違い。またIさんとKさんに教えてもらい進む。緩やかな尾根歩きは気持ちよく山桜も綺麗に咲いていて春を満喫しました。途中富士山の姿も見ることができ気分が上がりました。山頂に行く手前で下る道を確認前進。お昼休憩は楽しい一時で「飲む点滴」が今も笑える一言です。

お天気に恵まれた山行は最高です。下りもこけることなく無事下山できてよかったです。ちょっとしたアドバイスがとてもためになり、「地図は見るのではなくこの場合は読むもの。」と。奥が深い地図読みですが、ルート探しや迷子にならないように日々勉強だなと思いました。飛び入りで参加させて頂き感謝です。ありがとうございました。

その他の記述（後藤）

1. 朝、前日開通の「ぐみ沢IC～須走IC（約7km・無料）」を初走行。快適だった。
2. 適当な駐車場がなく困った。ウロウロしたがいい場所がない。昔、道志の森キャンプ場でトラブルがあったことがある。空き地に駐車し菰釣山に上り、下山し帰ろうかと思ったら、自称・地主のオヤジが出て来て駐車料金を払えと言う。
しかし、そもそも、そこは駐車場の表示がなかった。当然、料金も分からない。仮に、駐車料金を請求するなら、それなりの表示が必要ではないか。表示があり、納得し駐車する。暗黙の契約だろう。私は、どうしても納得できず支払わなかった。それと、本当に「地主」かどうか証明するものはない。
だが、一緒に駐車した仲間は、面倒なので支払って、そそくさと帰った。そんなことで今回も慎重になった。山荘「水之元」は、良かった。気持ち良いイ方も多い。山荘は、昭和60年から36年営業。長くやっているのは、良い宿の証。
3. 北東尾根 P1130mに着いた時、「はてな、何処かしてみたような??」だった。良く考えたら、2019.05.12、ここから下の北西尾根をやっていた。その時は、男子3名。女子は、北尾根Aを上り、三角点1229.3mで合流した。下山は、A北尾根を下山した。A北尾根に出たところに手製の道標があり、クギで文字を表示してあった。
4. 下降する尾根は、標高1310m峰B北尾根。北に向かう尾根は、上記の三角点1229.3を有す、尾根も北向きなので、便宜上、北尾根A、Bと分けてある。
5. 花は、マメサクラ・ミツバツツジ

